

第2期しもやま観光戦略プラン（概要）

1. 計画の趣旨

（1）趣旨（なぜプランを作るのか）

下山地区には三河湖をはじめ多くの魅力があるが、その魅力を十分に活かし切れておらず、観光入込客数は減少傾向が続いている。そうした中で**地域の観光を次世代につなげていくためには、関係者が方向性を共有し、計画的に取り組むための観光戦略プランが必要である。**

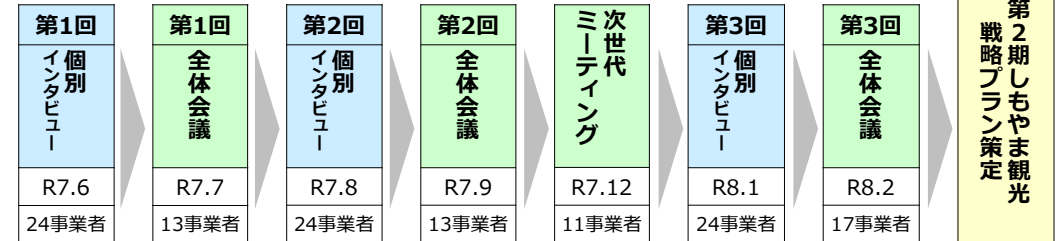
本計画は、**次世代を担う人たちが地域に希望を持ち、関係者が一丸となって実行できる方向性を示すための5年間（2026-2030）計画とする。**

（2）体制

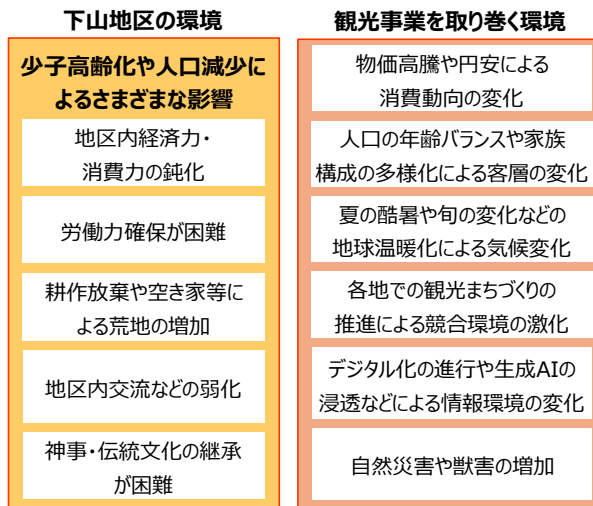
取組主体である地区事業者が、地域住民や諸団体、豊田市、観光協会等と連携して推進する。

2. 策定の考え方とプロセス

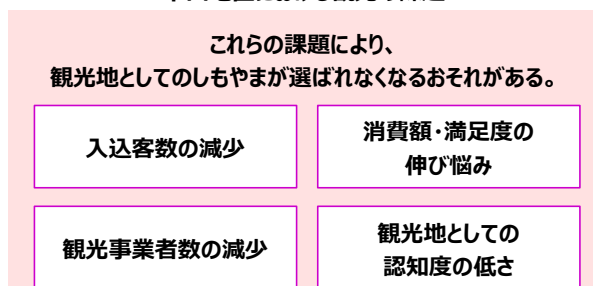
第1期プランの総括から、事業者がプランを認識しておらず自分事として捉えていないことが分かった。そのため、自分事として取り組めるように、策定段階から事業者の意見を取り入れ策定した。具体的には、策定期間に事業者への個別インタビューと全体会議を経て取組内容を計画した。



3. 下山地区における観光の環境と課題

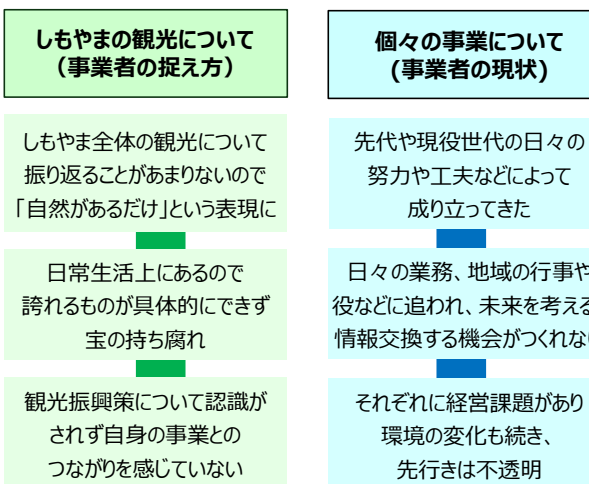


下山地区における観光の課題



4. 地区事業者の考え

個別インタビュー・全体会議を通じて、地区事業者に下山地区の観光に関する考えや事業の現状について聞き取りを行った。



事業環境の激変により、従来の経営手法だけでは通用しなくなっている。

現役世代は、日々の経営だけにとどまらず、しもやまを次世代につなげていく責務がある。

次世代がしもやまに誇りが持てるように、自分事として現役世代が一丸となって取り組める戦略プランが必要。

5. 推進方針と目指すべき姿

（1）観光戦略プランの推進方針

次世代につなぐ：次世代の事業者がしもやまの生活や文化に誇りを持ち、笑顔で生き生きと活躍している。

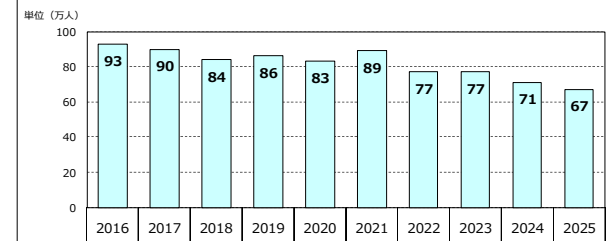
観光事業者の団結：地域の事業者それぞれが自分事として観光まちづくりに取り組むために、関係者の意見が幅広く取り入れられ、地域一体となった推進体制を構築している。

（2）目指すべき姿

体験・自然・文化が融合した『しもやまアドベンチャーツーリズム』の実現
 レジャー・観光で訪れた人に感動体験や癒しの場を提供している。

（3）第2期しもやま観光戦略プラン目標値

指標	目標値
観光入込客数	年間75万人（2030年）



※ 豊田市下山支所データより

第2期しもやま観光戦略プラン（施策体系）

コンセプト	戦略・策定の背景	戦略概要	実施項目		取組内容	
冒険！体験！発見！ しもやま 冒険体験発見しもやま	戦略Ⅰ 観光資源の磨き上げ	既存資源の整理・磨き上げを行うとともに、新規資源の創出を行い、下山地区の魅力が伝えられる状態にします。	①	魅力のPR	1	新たな魅力や体験プログラムの発掘（名物をさがせ）
			しもやまの魅力を整理し、共通して伝えられるようにする取組		2	おもてなしカレンダー作成
					3	ゴールデンルート設定
	「しもやまの魅力を見つけてみんなで育てよう」		②	ビューポイントの整備	1	環境整備（清掃/植栽）
					2	看板修復/設置
			3	フォトスタンド設置		
	戦略Ⅱ 戦略的な情報発信	情報発信体制を構築し、利用者のニーズに合った情報を積極的に発信していきます。	③	デジタルでの発信	1	テーマに合わせたSNSの投稿
					2	インフルエンサーの受入/活用
			3	イベントやプログラムの申込窓口の検討		
	「しもやまを多くの人に知ってもらおう」		④	リアルでの発信	1	出展事業者のカatalog作成
					2	出展プログラムのPR
			3	イベントへの出展		
	戦略Ⅲ スポーツツーリズムの確立	三河湖左岸道路整備を契機として、三河湖を中心にしもやまのスポーツツーリズムの受入体制を整備し、スポーツフィールドとして活用します。	⑤	受入体制の整備	1	提供機能の整理と各機能の連携体制の構築
					2	イベント時の受入実施
			3	原石山をはじめとした拠点整備		
	「スポーツでしもやまのファンを増やそう」		⑥	スポーツフィールドとしてのPR	1	ラリーイベントの活用
					2	大学/企業/競技団体等へのPR
			3	誘致イベントの企画・実施		
	戦略Ⅳ 組織力強化	事業者を中心に観光協会、行政が協力し合い、情報共有をはじめ観光戦略プランの推進に必要な地域内の連携体制を構築します。	⑦	観光戦略プランの推進	1	観光戦略プラン会議・分科会の開催
					2	LINE等を活用した情報共有
			3	集客力強化のための講座開催		
	「みんなで話し合い、一丸となって取り組んでいこう」					